

第3回 中央市学校再編に向けた地域検討会議(玉穂南小学校) 議事録

1 日 時 令和7年3月13日(木) 19:00~21:00

2 場 所 中央市立玉穂総合会館

3 出席者

- ・委員(18 名)
- ・教育委員会(教育長・委員(3 名)・事務局(6 名))

1. 開会

2. 市教育委員会あいさつ(教育長)

3. 会長あいさつ

4. 議事

① 市教育委員会説明

事務局から資料2の説明を行った。新しい学校について。

② 意見交換

○会長

質問だけではなくてご意見も一緒です。

○副会長

文字ではなく視覚的に、皆で共有できるイメージを提示していただいた。この資料を見て、テレビで見たアメリカのアップル社とかグーグル社のような、最新企業のオフィスのようなイメージを受けた。遊びにも行かせてもらえるのか、というような楽しむ気持ちを持って、学校に行っても良いということを受けいれてもらえるという感覚を、この資料から受けた。

前回の会議からここまでで、私が体験したことをお話しさせていただく。地域のイベントに参加したときに、玉穂南小学校と三村小学校の協議がどうなっているのかを保護者に尋ねられた、各保護者には、この会議の協議内容が全て提供されているわけではないため、それぞれが得た情報から少しマイナスなイメージをお持ちだった。統合するしないを協議しているところで、行政的に決まっていけないのだということを伝えた。

あと三村小学校の方と直接お話をさせていただく機会を持つことができた。三村小学校は校舎の老朽化や度重なる増築・改修により、雨漏りや校舎・教室配置による見通しの悪さなど実情を聞かせてもらった。三村小学校の地域検討会議としては、玉穂南小学校との統合に積極的な意見でまとまったそうだ。

私はこれまで玉穂南小学校は早急に建替えが必要な状況ではないので、統合でも改築でもいいと思っていた。しかし同じ玉穂地区の三村小学校の子供たちは、校舎老朽化や配置による制限など問題点がある建物で学習していることを知った。将来を考えた時に、私は統合して欲しいと考えを改めた。将来の玉穂地域の子供たちの教育環境として、何がどうあったらいいのかと各自考えてもらいたいということを、保護者に伝えさせていただいた。

○委員

子供が2人三村小学校で1人を玉穂南小学校で卒業した。玉穂南小学校が開校した当時は、最先端の学校であることに衝撃を受け、型にはまった学校ではないというところに感嘆した。本日の説明のような新しい学校で子供たちが学べたらすごいことだと感じた。

中央市では学校の長寿命化計画に基づき、田富小学校の長寿命化改修工事を実施している。その現場を本日視察した。教室の大きさ、廊下の大きさなどが変えられないと説明を受け、言い方が悪いが、枠にはまった学校という感じがした。

個人とすれば、玉穂の2つの小学校の将来を考えた時に、新しい教育環境を取り入れてあげたい。子供たちの数年先のことを考えると、今の時代に合った教育環境はすごく大事ではないか。

○委員

この発表の資料、とても良いと思っているが、近隣で同じように統合しようとしているところはあるのか。

個人の勝手な考えだが、こういった魅力的な小学校ができ、近隣にないのであれば、中央市の魅力になるのではないか。

○事務局

過疎地域であったり、児童・生徒数の減少に伴う統合を進めている市町村はある。

市内で言えば、田富北小学校が、今一番新しい施設となる。大きなメイン階段の脇にベンチスペースを作り、そこで音楽集会だったり、読み聞かせだったり子供が集まる場として活用している。

○委員

甲府市のリニア駅建設予定地域近辺ではやっていないか。リニア駅の近くで、より人口が増えるようにしていくのであれば、小学校が新しくなれば玉穂地区に来るかなと思った。

○事務局

大里小は、現在は校舎の改修はしていない。山城小は人が増えて教室が足りないということで、教室を増設した。事例として、中規模校が2つ集まって統合をという事例は近隣ではあまりない。

○会長

文科省の新しい学校施設の答申だけ見るといかにも夢のある学校が作れるように思ってしまう。施設設備だけではなくて、新しい教育環境を実現するための、授業の展開や学び方、学習習慣などをどのように中央市として作るのかが重要。先生の負担も大きいのではないか。

建物だけを作るのではなくて、建物の中で活動する子供たちの姿や、授業観とか、学習観、まなび観を、どのように作っていくのかと同時に進行していかないと、建物から作ってもだめだと考える。

それから不登校も含め、色々な特性をもった子供たちを、包摂と統合の教育、インクルーシブ教育をしていかなければならない。建物だけでない中身のある学校づくりをし

ていかないと、校舎だけ新しくすればいいという問題ではないということを感じた。

もう少し具体的に校舎をどう作っていくのかを考える必要がある。大事なことは、授業づくり授業観、学習観、まなび観、と一緒に並行して、施設も考えていかなければならない。

○教育委員

今回の説明内容すべて実現できるかどうかという問題あるが、目標として近づけたいという気持ちはもともとある。先生の負担について意見もあったが、先生方は常に学びの姿勢を持っていて、これまでも様々なことに対応し、それぞれが力をつけてやってきた。

不登校についてだが、その子が学校と合わない、先生と合わない、学びの仕方が合わなくて不登校になるなどのケースもある。多様性のある学びができるというのは、不登校だけでなく、色んな子供に対応ができる。

一斉授業みたいなものを今までやっていたが、子供の特性や個性、そういうものも大事に指導の仕方だけでなく施設としても対応していくことが、今日新しい教育の中には含まれている。

少人数学級で、きめ細かな授業をできるのが良いのだというよう言われているが、令和型の教育というのは、いろんな活動をするので、先生1人では対応することが困難である。授業に関わる多くの先生が必要となる。児童1人1人にあわせた個別最適な学びを実現させるには先生方の協力が必要で、学校規模が大きくなると子供に関わる先生の数が増えて、逆にきめ細かい対応ができるのではないかな。

○教育委員

長寿命化計画をこのまま進めていくと、約40年間は施設を使い続ける。子供ファーストで考えたときに、長寿命化改修工事で新しい教育環境を与えられるのかなというのは疑問に思っている。今日の説明資料を見るとこれまでの学校という建物との差が大きいのをすごく感じた。

私の子供が通うわけではないが、孫やそのあとの子供たちのためにも何かを残してやりたい、より良い方向をと考えたら、様々な意見が出ているなかで一番いい方向を選んでいくことがいいのではないかな。

○委員

お金をかけても、空間を豊かにできても、良い教育ができるとは限らないというのが、教育の大事なところで、どのような教育をしていくかという信念なくして、ハコモノを語るべきではないということではないかな。信念と施設をあわせてどう作っていくかを示したのが今日の資料ではないかな。すぐに実現できなくても10年後20年後と次第に実現されていくのではないかな。

三村小学校の老朽化等について話がでたが、施設の瑕疵、不備があった場合には、教員が責任を問われることもある。三村小学校の教員が物理的な対応だけでなく児童への指導もしっかりしているため、大きな事件事故が発生していない。

三村小学校の少し後に建設された玉穂中学校とくらべると、玉穂中学校では廊下からでも子供たちの表情を確認しやすい造りとなっている。古い学校の同土を比較しても施設の造りによって差が生じている。次の時代の教育をさらに進めると考えたときに、施設の造りにも、どのような教育をしていくかという点においてもまだ追いついていかな

いことがある。

○委員

三村小学校は新築でなくて長寿命化改修工事で進めていく計画となっている。できたら長寿命化ではなく、三村小学校を新築として、新しい学校の場所はどこか、どういう学校を作っていくかを検討していくことが再編に向けた一番いいことではないか。それぞれ予算的な問題があるが、どういう学校作るかも大変だと思うが、長寿命化改修工事は、できるだけ避ける方がいい。長寿命化を進めるということではなくて、統合を含めた新築という方法で進めて欲しい。

○教育長

三村小学校の築年数が48年くらい、玉穂南小学校は30年ほど。今工事している田富小学校は、50年経つ。次に、市内で古い校舎は田富中学校となる。

三村小学校を改築なり新築なりした後、古さでいくと田富中学校、玉穂中学校、田富南小学校と改修等を進めていくこととなる。玉穂南小学校は、まだ経過年数が若い校舎のため、先ほどの意見で快適だと言われるのも納得できる。

昨年度のあり方検討委員会の提言をもとに、玉穂地区の子どもたちという全体を考えたときに、長寿命化計画を進めるのか、地域に1つの小学校にするのかを検討してはどうかというのが、皆さんにお伺いしている内容である。

地域に一つの小学校となった場合、玉穂中学校もあるので、いろんな活動ができる。例えば、小中連携的な活動もできるし、義務教育の一貫性をもった活動もできる。あるいは他の地区にはない、山梨大学医学部附属病院と、今も玉穂中学校を中心に、児童生徒の健康に関する取組を行っている。こういった新しい取組も地域で連携が取れていると本当に動きが早い。

○委員

玉穂南小学校と三村小学校の統合だけでなく、市全体の学校再編に向けた見通しがあるか。近隣の市町村の自治体では統廃合について、いろんな動きがあるが中央市の状況はどうか。

中央市のまちづくりをどうしていきたいのかという方向性はどうなっているのか。学校もまちづくりの一部ではないか。

○教育長

市内全体の学校の再編については昨年度のあり方検討委員会から提言されている。

あくまでも私案としては、まずは三村小学校、玉穂南小学校が、統合して新しい学校という形がいいのかと思っている。また、将来的には中学校単位でも、適正規模を維持していくために統合の検討が必要となる。田富中学校と玉穂中学校が統合し、田富中学校を他の場所に移転した跡地に、田富小学校と田富南小学校を統合したうえで不足する教室棟の増築、あるいは一般市民の利用を想定した複合施設を作れば、地域コミュニティ施設と学校施設の両方の機能も実現できるのではないかと。

詳細な検討となれば、同様にそれぞれの地区に改めて地域検討会議を立ち上げて議論していく。

○委員

前回の地域検討会議では市当局全体として議論をしていく必要性について意見が出た。中央市をどのようにしていきたいから学校施設をどうしていきたいという話もあった。してしかるべきだと思ったが。

○教育長

その段階の話になると、地域検討会議の趣旨を超える話となるので、こういった意見もあったということは市長の方にも伝える。

○会長

私はコミュニティスクールの協議員の一員として、玉穂南小学校に協力する立場である。コミュニティスクールは、地域の中に、地域づくりの核としての学校の位置付けという発想がもとにあった。大事なことは、地域づくりをどう進め、地域の中で学校はどうあるべきかだと考える。地域がどうなるかわからない状況で、学校をどうするかという議論も、本末転倒であると思う。リニアの開通に関連し、中央市としてのまちづくり構想を持っていないとならない。

コミュニティスクールとは、地域づくりの中核として、地域の学校を位置付けていこうというそういう発想だったはず。市長部局のまちづくりをどうするのかという説明は必要ではないか。

○教育長

市としての都市計画やまちづくり等に関しては、長期総合計画などの各種計画がある。今この場で各種計画に記載されている内容の説明は差し控えさせていただくが、ホームページ等で公表しているのでご確認いただきたい。

コミュニティスクールのお話をいただいたが、そういう意趣のもと地域検討会議で、皆さんから意見を聞いている。決して、行政の方で、先導的に統合を進めているのではない。

まずは、地域、コミュニティスクールを核としたこの地域検討会議で、地域にとっての学校、地域の子供たちをどのように育っていくのか、その意見をお伺いしている。

○委員

三村小は統合の方に話が決まったようなことを聞いているが、私は反対である。

先ほど、地域の中にある学校という話も出たけれど、学校規模・対象地域が大きくなることが、子供のために本当にいいのか疑問。

説明資料のような学校を建設して、子供が快適で便利で気持ちよく学校生活が送れる、全て与えられた環境が果たして子供のためになるのか。

日本は財政赤字を抱え少子高齢化と言われる中で、今あるモノを活かして、今ある地域を大事にし、地域の中での学校はどうあるべきか、みんなで学校を盛り立てていくことを実施して現状を継続させる方が良い。

アンケート結果「統合した場合の不安」第1位が「通学距離」、第2位が「目が行き届かなくなる」である。不登校の子供が増えているという状況の中で、そういう保護者の心配は大きな課題だと思う。そういうことも含め今後も統合には反対する。

○教育委員

地域の中にある学校をどう考えていくかも大事なことだが、三村小学校、玉穂南小学校がある玉穂地区の子供たちの教育環境をどうしていくかということが第1ではないか。不登校の子供についても、県の決まりなどによりしっかり教職員が配置される。教職員数が確保されれば、不登校だけでなく様々な問題に対応できる余力が増えてくる。施設の問題だけではなく、教員数の確保という意味でも検討しなければいけない。

○委員

アンケートや委員の意見で色々な不安があるというのは理解できる。登校における安全を考えると不安になるという気持ちもわかる。また、現状あまり困っていないのであれば、現行通りでもいいのではないかとということも理解できる。

地域で誇れるというよりも、子供たちがその学校を誇れるかどうかというところが一番問題になってくるのではないかと。

コミュニティの単位を学校単位と新たに構築するためには市が何らかのビジョンを出してもらうことが重要になってくるのではないかと。

また、学校規模の拡大や、不登校、**特性**を持つ子供たちへの対応など、統合により変わる部分にどう対応するかしっかり議論した上で、地域の方が思っている不安が払拭できるような説明が必要ではないかと。

○教育長

各論については、次のステップである代表者会議等で必要に応じて議論していかなければならない。今、議論をお願いしたいのは、統合に向けた協議を三村小学校とやるかどうかである。三村小学校の考え方とは違うなということであれば、それぞれ長寿命化改修を行っていくこととなる。

次のステップの議論をどうしていくのかという意見があれば頂戴したい。

○委員

子供たちが、学校の中で安心安全で伸び伸びと生活できることが重要。その中でも子供たちの居場所づくりが一番大事ではないか。今は先生方が工夫し学校運営がなされている。本日の資料で提示された新たな可能性のある環境づくりというものを、これからの子供たちにとって、一番いい環境なのではないか。新たな学校づくりという部分を進めていきたい。

○委員

教育長が各論の検討についておっしゃったが、課題の解決策など説明があれば、もっとと協議を進められるのではないかと。どういう状況であつたら賛成で、どういう状況だつたら反対なのか、踏み込んだ検討がなければ、この会議の意見として賛成・反対を採択するのは困難ではないかと。

○教育長

意見の方向性として、PTA学校関係者の方々と地域の方々と分かれているように感じる。

○副会長

子供たちは子供たちの輪の中で、子供たちの社会の中で育つ。残念ながら児童数は減少していき玉穂南小学校も三村小学校も今の規模がこの先続いていくわけではない。もう少し大きい学校で育ってきた経験から、今の児童数でも少ないのではないかと感じている。

不登校については、「登校しない」、「学校に行きたくない」ではなくて今の子供たちが「通いたくなる学校」になっていないことが問題。

どんな子供たちでも、学びたい、学びたくない関係なく、子供たちの輪の中で、安全安心に過ごせる場所、未来の子供たちの感覚、価値観にあった学校を作ってあげたいか、そうではないかということをそれぞれの立場で考えていただきたい。

○委員

教育長からPTAと地域の方で意見が対立しているというような見解をいただいたが、いろいろな立場、いろいろな意味でそれぞれがよいと考える意見をいただいていると思う。次のステップである地域代表者会議が極めて重要な会議になってくるが、地域検討会議ではどこまで決めるのか、そして地域代表者会議を開催方針、スケジュールの案があればご提示いただきたい。

○教育長

資料1に示しているように、現在は、地域検討会議を開催している。来年度、ステップ2ということで、地区ごとの地域検討会議から代表者を選出した地域代表者会議でどういった学校づくりをしていくのか、より具体的な協議を進めていく。地域代表者会議の協議が折り合わず統合しないとなれば会議体を解散し、各校長寿命化改修工事等に進んでいく。

地域検討会議では統合するしないを決定するのではなくて、来年度の代表者会議の中で最終的な決定をいただくという形を想定している。

○委員

このあと、三村小学校との懇話会とか協議会を行うのか。

○教育長

三村小学校自体の地域検討会は結論が出ている。この地域検討会議での結論を三村小学校の方には伝える。今後の協議はしないという結論であればそれを伝える。

○委員

統合するしないを決めるのか今回で。

○会長

これまでの地域検討会議での検討だけでは統合の可否は決められない。もっと協議が必要。この地域検討会の結論としては、両論併記とし、基本の部分了三村小と地域代表者会議で協議し玉穂南小学校としての方針を決めていけばいいのではないかと。

○教育長

多数決というより、本当に玉穂南小学校の子供たちにとってどういった進め方をして

くのが最善なのか、そこは考えて議論をここでやめるのか、あるいは進めていくのか。今回の地域検討会議では様々な意見を交わすことができている、ありがたいと思っている。

今後地域代表者会議になれば、三村小学校関係者の意見と玉穂南小学校関係者の意見のすり合わせなど、発展的な協議になっていく。これまでの両校の地域検討会議で、でた意見の中にも一致しているもの一致していない物があるため、今後の協議も大変意義深いものになる。

玉穂地区の子供たちにとってどういう施策をしていけばいいのか、玉穂南小学校の関係者だけで同じ議論をするのではなく、より発展的な協議ができる方向をお願いしたい。

○委員

令和7年度代表者会議で、統合の可否を決定するので、この玉穂南小学校の地域検討会議としては、代表者会議に出席するか、しないかということを決めればいいのか、代表者会議に進んで、色々な意見を聞いて検討し決定すればいいのではないかと。

○会長

代表者会議に進み、この地域検討会議の代表者が参加して三村小学校の代表者とまた議論をするということによろしいか。それだけ確認し、この会議を終了してもよろしいか。

(異議なし)

○会長

メンバーについての、ご意見ございますか。

○会長

代表者会議のメンバーの選出方法については事務局一任で、よろしいでしょうか。

(意見なし)

以上で終了します。

○事務局

第3回地域検討会議を終了する。長時間ありがとうございました。